

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	研究科の専攻の設置									
フリガナ設置者	コリツダガクカホジノカノヤイクダガク									
フリガナ大学の名称	カノヤイクダガクカクイクイン 鹿屋体育大学大学院（National Institute of Fitness and Sports in KANOYA Graduate School）									
大学本部の位置	鹿児島県鹿屋市白水町1番地									
大学の目的	<p>本学大学院は、スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する学術の理論及び応用と実践が一体となった教育研究を展開し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、スポーツ・武道文化の進展及び国民の健康の増進に寄与する。</p>									
新設学部等の目的	<p><大学体育スポーツ高度化共同専攻>（後期3年の課程のみの博士課程/共同教育課程） 筑波大学と鹿屋体育大学の大学体育スポーツに関する教育研究実績を活かし、大学体育スポーツを先導する確かな専門的知識と実技教育能力を兼ね備え、現場の教育指導と研究の循環を効果的に行える学術的職業人としての高度な体育教員を養成する。</p>									
新設学部等の概要	新設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 該当なし
	体育学研究科 [Graduate School of Physical Education]	大学体育スポーツ高度化共同専攻（後期3年の課程のみの博士課程） [Joint Doctoral Program in Advanced Physical Education and Sports for Higher Education]	3年	2人	-	6人	博士（体育スポーツ学） [Doctor of Philosophy in Physical Education and Sport Studies]	令和2年4月第1年次	鹿児島県鹿屋市白水町1番地	
	計		-	2	-	6				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	体育学研究科 スポーツ国際開発学共同専攻（M）（廃止）（△3） 大学体育スポーツ高度化共同専攻（D）（廃止）（△2） ※令和2年4月学生募集停止									
教育課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	大学体育スポーツ高度化共同専攻（博士後期課程）		講義	演習	実験・実習	計				
		5科目	10科目	1科目	16科目	14単位				

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
	人	人	人	人	人	人	人		
新設分	大学体育スポーツ高度化共同専攻		3 (3)	(-) (-)	(-) (-)	(-) (-)	(3) (3)	(-) (-)	(1) (1)
	計		3 (3)	(-) (-)	(-) (-)	(-) (-)	(3) (3)	(-) (-)	(1) (1)
	(令和2年4月学生募集停止)		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
既設分			0	0	0	0	0	0	0
	計		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	合計		3 (3)	(-) (-)	(-) (-)	(-) (-)	(3) (3)	(-) (-)	(1) (1)
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		60 (60)		27 (27)		87 (87)		
	技術職員		7 (7)		0 (0)		7 (7)		
	図書館専門職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	その他の職員		1 (1)		18 (0)		19 (19)		
計		68 (68)		45 (45)		113 (113)			
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用		計			
	校舎敷地	134,622 m ²	0 m ²	0 m ²		134,622 m ²			
	運動場用地	168,701 m ²	0 m ²	0 m ²		168,701 m ²			
	小計	303,323 m ²	0 m ²	0 m ²		303,323 m ²			
	その他	75,785 m ²	0 m ²	0 m ²		75,785 m ²			
合計	379,108 m ²	0 m ²	0 m ²		379,108 m ²				
校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用		計				
	14,549 m ² (14,549 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)		14,549 m ² (14,549 m ²)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	14室	9室	30室	2室 (補助職員 1人)	2室 (補助職員 0人)				
専任教員研究室	新設学部等の名称			室数					
	大学体育スポーツ高度化共同専攻			3室					
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	申請大学全体	116,221 [24,512] (116,221 [24,512])	2,508 [586] (2,508 [586])	4,437 [4,437] (4,437 [4,437])	867 (867)	31 (31)	0 (0)		
	計	(116,221 [24,512])	(2,508 [586])	(4,437 [4,437])	(867)	(31)	(0)		
図書館	面積	閲覧座席数		収納可能冊数					
	1,288 m ²	106		108,667					
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
	14,072 m ²	陸上競技場 (3種)		1面	テニスコート		16面		
		サッカー場		1面	ハンドボール場		1面		
		ラグビー場		1面	ゴルフ練習場		11打席		
		ホッケー場		1面					
		多目的グラウンド		1面					

申請大学全体

借用地：高須団地461m²

専攻単位での特定不能なため、申請大学全体の数

経費の積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による
		教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—	
		共同研究費等		—	—	—	—	—	—	
		図書購入費	—	—	—	—	—	—	—	
	設備購入費	—	—	—	—	—	—	—	—	
学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			該当なし							
既設大学等の状況	大学の名称		鹿屋体育大学							
	学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	<大学院>		年	人	年次	人		倍		
	体育学研究科									
	体育学専攻 (修士課程)		2	15	—	30	修士 (体育学)	0.87	昭和63年度	鹿児島県鹿屋市白水町1番地
	体育学専攻 (博士後期課程)		3	6	—	18	博士 (体育学)	1.04	平成16年度	鹿児島県鹿屋市白水町1番地
	スポーツ国際開発学共同専攻 (修士課程)		2	3	—	6	修士 (スポーツ国際開発学)	0.67	平成28年度	鹿児島県鹿屋市白水町1番地
	大学体育スポーツ高度化共同専攻 (後期3年みの博士課程)		3	2	—	6	博士 (体育スポーツ学)	1.00	平成28年度	鹿児島県鹿屋市白水町1番地
	<学士課程>									
	体育学部									
スポーツ総合課程		4	120	—	480	学士 (体育学)	1.06	平成18年	鹿児島県鹿屋市白水町1番地	
武道課程		4	50	—	200	学士 (体育学)	1.04	昭和59年	鹿児島県鹿屋市白水町1番地	
3年次編入学		2	—	20	40	学士 (体育学)	—	平成20年	鹿児島県鹿屋市白水町1番地	
		<研究施設及び研究支援施設等>								
		名称：国際交流センター								
		目的：留学生への支援、外国語に関する専門的教育及び研究を推進し、国際交流の進展に寄与することを目的とする。								
		所在地：鹿児島県鹿屋市白水町1番地								
		設置年月：昭和60年7月								
		規模等：延床面積 394㎡								
		名称：海洋スポーツセンター								
		目的：海洋性の体育・スポーツ及びレクリエーションに関する原理、実践方法及び指導技術等を教育研究するとともに、学生、教員等の海洋性スポーツの実践の場として、海洋性スポーツの充実発展に寄与することを目的とする。								
		所在地：鹿児島県鹿屋市高須町2457								
		設置年月：昭和62年4月								
		規模等：延床面積 1,167㎡								
		名称：スポーツトレーニング教育研究センター								
		目的：発育発達段階に応じたトレーニング方法の開発・研究を推進し、スポーツの振興に資することを目的とする。								
		所在地：鹿児島県鹿屋市白水町1番地								
		設置年月：平成6年5月								
		規模等：延床面積 1,017㎡								
		名称：生涯スポーツ実践センター								
		目的：人々のライフステージに応じ、その生活環境及び健康状態に即した運動・スポーツを推進するため、教育及び調査研究を行うとともに、それに関連する事業を実施し、生涯スポーツの振興に資することを目的とする。								
		所在地：鹿児島県鹿屋市白水町1番地								
		設置年月：平成13年4月								
		規模等：延床面積 81㎡								

附属施設の概要	名称：スポーツ情報センター
	目的：本学の情報処理機能の高度化と学外の情報ネットワークとの連携を推進し、マルチメディアを活用した教育及び研究に資するとともに、情報の発信を通して体育・スポーツの進展に寄与することを目的とする。
	所在地：鹿児島県鹿屋市白水町1番地
	設置年月：平成10年12月 規模等：延床面積 269㎡
附属施設の概要	名称：スポーツパフォーマンス研究センター
	目的：競技力向上を中心としたスポーツパフォーマンス研究を推進することを目的とする。
	所在地：鹿児島県鹿屋市白水町1番地
	設置年月：平成30年4月 規模等：延床面積 4,254㎡
附属施設の概要	<その他附属施設>
	名称：アドミッションセンター
	目的：本学におけるアドミッションオフィス方式による入学者選抜試験の企画・実施、入学者選抜方法等の調査研究、高大連携及び入学者選抜に係る企画・広報、入学時から卒業後までの追跡調査等の業務を専門的、有機的に行い、もって本学の教育研究の充実発展に資することを目的とする。
	所在地：鹿児島県鹿屋市白水町1番地 設置年月：平成15年4月 規模等：-
附属施設の概要	名称：保健管理センター
	目的：学生及び職員の保健管理並びに健康増進に関する専門的業務を行い、心身の健康の保持増進を図るとともに、学生の修学、生活等の相談を行うことを目的とする。
	所在地：鹿児島県鹿屋市白水町1番地
	設置年月：昭和63年5月 規模等：延床面積 200㎡

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校は、私立の大学の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

基本計画書（共同学科等）

事項	記入欄																				
計画の区分	研究科の専攻の設置																				
構成大学の設置者	国立大学法人鹿屋体育大学				国立大学法人筑波大学				/												
構成大学の名称	鹿屋体育大学大学院				筑波大学大学院																
構成大学の本部の位置	鹿児島県鹿屋市白水町1番地				茨城県つくば市天王台1丁目1番地の1																
共同学科等の名称	大学体育スポーツ高度化共同専攻（後期3年の課程のみの博士課程）[Joint Doctoral Program in Advanced Physical Education and Sports for Higher Education]																				
共同学科等の目的	筑波大学と鹿屋体育大学の大学体育スポーツに関する教育研究実績を活かし、大学体育スポーツを先導する確かな専門的知識と実技教育能力を兼ね備え、現場の教育指導と研究の循環を効果的に行える学術的職業人としての高度な体育教員を養成する。																				
共同学科等の概要	入学定員	編入学定員	収容定員	/	入学定員	編入学定員	収容定員	/	修業年限	入学定員 (合計)	編入学定員 (合計)	収容定員 (合計)									
	2	-	6		3	-	9		3	5	-	15									
学位	博士（体育スポーツ学）[Doctor of Philosophy in Physical Education and Sport Studies]																				
開設時期及び開設年次	令和2年4月 1年次																				
教育課程 (各構成大学が開設する授業科目数)	講義	演習	実験・演習	計	講義	演習	実験・演習	計	講義 (合計)	演習 (合計)	実験・演習 (合計)	計									
	2科目	6科目	0科目	8科目	3科目	6科目	1科目	10科目	5科目	10科目	1科目	16科目									
教員組織の概要	専任教員等			兼任 教員等	専任教員等			兼任 教員等	専任教員等(合計)					兼任 教員等 (合計)							
	教授	准教授	講師		助教	計	助手		教授	准教授	講師	助教	計		助手	教授	准教授	講師	助教	計	助手
	3人 (3)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	3人 (3)	0人 (0)	1人 (1)	5人 (5)	1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	6人 (6)	0人 (0)	11人 (11)	8人 (8)	1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	9人 (9)	0人 (0)	12人 (12)
	研究指導教員等			その 他の 教員	研究指導教員等			その 他の 教員	研究指導教員等(合計)					その 他の 教員 (合計)							
教授	准教授	講師	助教		計	教授	准教授		講師	助教	計	教授	准教授		講師	助教	計				
3人 (3)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	3人 (3)	1人 (1)	5人 (5)	1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	6人 (6)	11人 (11) ※	8人 (8)	1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	9人 (9)	0人 (0)	12人 (12)			
教員以外の 職員の概要	専任	兼任	兼任	計	専任	兼任	兼任	計	/												
	事務職員	60人 (60)	27人 (27)	87人 (87)	712人 (712)	345人 (345)	1,057人 (1,057)														
	技術職員	7人 (7)	0人 (0)	7人 (7)	580人 (580)	950人 (950)	1,530人 (1,530)														
	図書館専門職員	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	52人 (52)	4人 (4)	56人 (56)														
	その他の職員	1人 (1)	18人 (18)	19人 (19)	8人 (8)	32人 (32)	40人 (40)														
計	68人 (68)	45人 (45)	113人 (113)	1,352人 (1,352)	1,331人 (1,331)	2,683人 (2,683)															

※大学院共通科目担当の教員1名を含む。

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	専用(合計)	共用(合計)	共用する他の学校等の専用(合計)	計		
	校舎敷地		134,622 m ²	m ²	m ²	139,909 m ²	1,373,254 m ²	0m ²	0m ²	1,373,254 m ²	1,513,163 m ²	0m ²	0m ²	1,513,163 m ²	
運動場用地		168,701 m ²	m ²	m ²	168,701 m ²	344,887 m ²	0m ²	0m ²	344,887 m ²	513,588 m ²	0m ²	0m ²	513,588 m ²		
小計		303,323 m ²	m ²	m ²	308,610 m ²	1,718,141 m ²	0m ²	0m ²	1,718,141 m ²	2,026,751 m ²	0m ²	0m ²	2,026,751 m ²		
その他		75,785 m ²	m ²	m ²	33,072 m ²	797,247 m ²	0m ²	0m ²	797,247 m ²	830,319 m ²	0m ²	0m ²	830,319 m ²		
合計		379,108 m ²	m ²	m ²	341,682 m ²	2,515,388 m ²	0m ²	0m ²	2,515,388 m ²	2,857,070 m ²	0m ²	0m ²	2,857,070 m ²		
大学全体の収容定員(うち共同学科に係る収容定員を除いた数)		760人(748)				14,418人(14,409)									
教室等		講義室	演習室	実験実習室	講義室	演習室	実験実習室								
		14室	9室	30室	332室	300室	2,031室								
		情報処理学習施設		語学学習施設			情報処理学習施設		語学学習施設						
		2室(補助職員1人)		2室(補助職員0人)			30室(補助職員12人)		7室(補助職員14人)						
専任教員研究室数						1,831室									
図書・設備		図書	学術雑誌	視聴覚資料	機械器具	標本	図書	学術雑誌	視聴覚資料	機械器具	標本				
		[うち外国書] 冊	[うち外国書] 電子ジャーナル [うち外国書] 種				[うち外国書] 冊	[うち外国書] 電子ジャーナル [うち外国書] 種							
		116,221(24,512)	2,508(586)	4,437(4,437)	867	31	0	2,681,796(1,044,194)	30,364(12,874)	31,466(31,404)	17,262	24,989	551		
		(116,221(24,512))	(2,508(586))	(4,437(4,437))	(867)	(31)	(0)	(2,681,796(1,044,194))	(30,364(12,874))	(31,466(31,404))	(17,262)	(24,989)	(551)		
図書館		積閲覧座席数			収納可能冊数			積閲覧座席数			収納可能冊数				
		1,288 m ²			106			108,667			30,041 m ²			2,230	
経費の見積り及び維持方法の概要		区分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次				
				第4年次	第5年次	第6年次		第4年次	第5年次	第6年次					
		教員1人当り研究費等			—千円	—千円	—千円		—千円	—千円	—千円				
		共同研究費等			—千円	—千円	—千円		—千円	—千円	—千円				
		図書購入費			—千円	—千円	—千円		—千円	—千円	—千円				
		設備購入費			—千円	—千円	—千円		—千円	—千円	—千円				
		学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次				
				第5年次	第6年次			第5年次	第6年次						
				—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円			
		学生納付金以外の維持方法の概要		該当なし				該当なし							
備考		国費による				国費による									

既設学部等の状況	大 学 の 名 称 鹿屋体育大学							
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設年度	所 在 地
	<大学院>	年	人	年次人	人			
	体育学研究科							
	体育学専攻 (修士課程)	2	15	-	30	修士 (体育学)	昭和63年度	鹿児島県鹿屋市白水町1番地
	体育学専攻 (博士後期課程)	3	6	-	18	博士 (体育学)	平成16年度	鹿児島県鹿屋市白水町1番地
	スポーツ国際開発学共同専攻 (修士課程)	2	3	-	6	修士 (スポーツ国際開発学)	平成28年度	鹿児島県鹿屋市白水町1番地
	大学体育スポーツ高度化共同専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	2	-	6	博士 (体育スポーツ学)	平成28年度	鹿児島県鹿屋市白水町1番地
	<学士課程>							
	スポーツ総合課程	4	120	-	480	学士 (体育学)	平成18年度	鹿児島県鹿屋市白水町1番地
	武道課程	4	50	-	200	学士 (体育学)	昭和59年度	鹿児島県鹿屋市白水町1番地
	3年次編入学	2	-	20	40	学士 (体育学)	平成20年度	鹿児島県鹿屋市白水町1番地

校 舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計
	14,549 m ² (14,549 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	14,549 m ² (14,549 m ²)

既設学部等の状況	大 学 の 名 称 筑波大学							
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設年度	所 在 地
	<学士課程>	年	人	年次人	人			
	人文・文化学群							
	人文学類	4	120	-	480	学士 (人文学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	比較文化学類	4	80	-	320	学士 (比較文化)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	日本語・日本文学類	4	40	-	160	学士 (文学) (日本語教育)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	社会・国際学群							
	社会学類	4	80	3年次10	340	学士 (社会学) (法学) (政治学) (経済学) (国際社会科学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	国際総合学類	4	80	-	320	学士 (国際関係学) (国際開発学) (国際社会科学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
	人間学群							

教育学類	4	35	—	140	学士 (教育学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
心理学類	4	50	—	200	学士 (心理学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
障害科学類	4	35	—	140	学士 (障害科学) (特別支援教育学) (社会福祉学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生命環境学群							
生物学類	4	80	—	320	学士 (理学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生物資源学類	4	120	3年次10	500	学士 (生物資源学) (農学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
地球学類	4	50	—	200	学士 (理学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
理工学群							
数学類	4	40	—	160	学士 (理学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
物理学類	4	60	—	240	学士 (理学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
化学類	4	50	—	200	学士 (理学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
応用理工学類	4	120	3年次10	500	学士 (工学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
工学システム学類	4	130	—	520	学士 (工学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
社会工学類	4	120	—	480	学士 (社会工学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
情報学群							
情報科学類	4	80	3年次10	340	学士 (情報科学) (情報工学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
情報メディア創成学類	4	50	3年次10	220	学士 (情報メディア科学)	平成19年度	茨城県つくば市春日1-2
知識情報・図書館学類	4	100	3年次10	420	学士 (図書館情報学)	平成19年度	茨城県つくば市春日1-2
医学群							
医学類(臨時定員増含む)	6	135	2年次5	813	学士 (医学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
看護学類	4	70	3年次10	300	学士 (看護学) (ヘルスケア)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
医療科学類	4	37	3年次3	154	学士 (医療科学) (国際医療科学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
体育専門学群	4	240	—	960	学士 (体育学)	昭和49年度	茨城県つくば市天王台1-1-1

芸術専門学群	4	100	—	400	学士 (芸術学)	昭和50年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
<大学院>							
教育研究科							
スクーラー・デザイン開発専攻 (修士課程)	2	20	—	39	修士 (教育学)	平成18年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
教科教育専攻 (修士課程)	2	80	—	160	修士 (教育学)	昭和53年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
人文社会科学研究科							
現代語・現代文化専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士 (文学) (言語学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
国際公共政策専攻 (博士前期課程)	2	15	—	30	修士 (政治学) (社会学) (国際政治経済学) (国際公共政策) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
国際日本研究専攻 (博士前期課程)	2	25	—	50	修士 (人文科学) (社会科学) (国際日本研究) (日本語教育学)	平成27年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
国際地域研究専攻 (修士課程)	2	36	—	72	修士 (地域研究) (国際学) (公共政策) (経済学) (学術)	平成27年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
現代語・現代文化専攻 (博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (文学) (言語学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
国際公共政策専攻 (博士後期課程)	3	10	—	30	博士 (政治学) (社会学) (国際政治経済学) (国際公共政策) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
国際日本研究専攻 (博士後期課程)	3	19	—	57	博士 (人文科学) (社会科学) (国際日本研究) (日本語教育学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
哲学・思想専攻 (一貫制博士課程)	5	6	—	30	博士 (文学)	平成13年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
歴史・人類学専攻 (一貫制博士課程)	5	12	—	60	博士 (文学)	平成13年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
文芸・言語専攻 (一貫制博士課程)	5	20	—	100	博士 (文学)	平成13年度	茨城県つくば市天王台1-1-1

				(言語学)		
ビジネス科学研究科						
経営システム科学専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60 修士 (経営学) (経営システム科学)	平成13年度	東京都文京区大塚3-29-1
企業法学専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60 修士 (法学)	平成13年度	東京都文京区大塚3-29-1
企業科学専攻 (博士後期課程)	3	23	—	69 博士 (経営学) (システムズ・マネジメント) (法学)	平成13年度	東京都文京区大塚3-29-1
法曹専攻 (専門職学位課程・法科大学院)	3	36	—	108 法務博士 (専門職)	平成17年度	東京都文京区大塚3-29-1
国際経営プロフェッショナル専攻 (専門職学位課程)	2	30	—	60 国際経営修士 (専門職)	平成17年度	東京都文京区大塚3-29-1
数理工学科学研究科						
数学専攻 (博士前期課程)	2	27	—	54 修士 (理学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
物理学専攻 (博士前期課程)	2	50	—	100 修士 (理学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
化学専攻 (博士前期課程)	2	48	—	96 修士 (理学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
電子・物理工学専攻 (博士前期課程)	2	54	—	108 修士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
物性・分子工学専攻 (博士前期課程)	2	61	—	122 修士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
数学専攻 (博士後期課程)	3	12	—	36 博士 (理学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
物理学専攻 (博士後期課程)	3	20	—	60 博士 (理学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
化学専攻 (博士後期課程)	3	16	—	48 博士 (理学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
ナノサイエンス・ナノテクノロジー専攻 (博士後期課程)	3	25	—	75 博士 (理学) (工学)	平成24年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
電子・物理工学専攻 (博士後期課程)	3	16	—	48 博士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
物性・分子工学専攻 (博士後期課程)	3	13	—	39 博士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
物質・材料工学専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	9	—	27 博士 (工学)	平成16年度	茨城県つくば市千現1-2-1他 (物質・材料研究機構)
システム情報工学研究科						
社会工学専攻 (博士前期課程)	2	108	—	216 修士 (社会工学) (サービス工学)	平成26年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
リスク工学専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60 修士 (社会工学) (工学)	平成13年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
コンピュータサイエンス専攻 (博士前期課程)	2	113	—	226 修士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1

知能機能システム専攻 (博士前期課程)	2	108	—	216	修士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
構造エネルギー工学専攻 (博士前期課程)	2	68	—	136	修士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
社会工学専攻 (博士後期課程)	3	26	—	78	博士 (社会工学)	平成26年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
リスク工学専攻 (博士後期課程)	3	12	—	36	博士 (社会工学) (工学)	平成13年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
コンピュータ工学専攻 (博士後期課程)	3	28	—	84	博士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
知能機能システム専攻 (博士後期課程)	3	24	—	72	博士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
構造エネルギー工学専攻 (博士後期課程)	3	16	—	48	博士 (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生命環境科学研究科 地球科学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	78	修士 (理学) (地球科学) (地球環境科学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生物科学専攻 (博士前期課程)	2	49	—	98	修士 (理学) (生物科学)	平成17年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生物資源科学専攻 (博士前期課程)	2	106	—	212	修士 (農学) (生物資源工学) (生物工学) (バイオテクノロジー) (学術)	平成17年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
環境科学専攻 (博士前期課程)	2	69	—	138	修士 (環境科学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
国際連携持続環境科学専攻 (博士前期課程)	2	6	—	12	修士 (持続環境科学)	平成29年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
地球環境科学専攻 (博士後期課程)	3	11	—	33	博士 (理学) (地球環境科学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
地球進化科学専攻 (博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (理学) (地球科学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生物科学専攻 (博士後期課程)	3	26	—	78	博士 (理学) (生物科学) (学術)	平成23年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
国際地縁技術開発科学専攻 (博士後期課程)	3	22	—	66	博士 (農学) (生物資源工学) (学術)	平成17年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生物圏資源科学専攻 (博士後期課程)	3	20	—	60	博士 (農学) (学術)	平成17年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生物機能科学専攻 (博士後期課程)	3	21	—	63	博士 (農学) (生物工学)	平成17年度	茨城県つくば市天王台1-1-1

生命産業科学専攻 (博士後期課程)	3	12	—	36	(学術) 博士 (農学) (生物工学) (生物科学)	平成17年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
持続環境学専攻 (博士後期課程)	3	12	—	36	(学術) 博士 (環境学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
先端農業技術科学専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	6	—	18	博士 (農学)	平成17年度	茨城県つくば市観音台3-1-1 (農業・食品産業技術総合研究機構)
環境バイオマス共生学専攻 (一貫制博士課程)	5	21	—	105	博士 (学術)	平成24年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
人間総合科学研究科 スポーツ健康システム・マネジメント専攻 (修士課程)	2	24	—	48	修士 (体育学) (保健学)	平成20年度	東京都文京区大塚3-29-1
フロンティア医科学専攻 (修士課程)	2	50	—	100	修士 (医科学) (公衆衛生学) (ヒューマン・ケア科学)	平成18年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
教育学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士 (教育学)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
心理専攻 (博士前期課程)	2	16	—	32	修士 (心理学)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
障害科学専攻 (博士前期課程)	2	45	—	90	修士 (障害科学) (特別支援教育学)	平成25年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生涯発達専攻 (博士前期課程)	2	46	—	92	修士 (カウンセリング) (リハビリテーション)	平成20年度	東京都文京区大塚3-29-1
感性認知脳科学専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士 (感性科学) (行動科学) (神経科学)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
看護科学専攻 (博士前期課程)	2	15	—	30	修士 (看護科学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
体育学専攻 (博士前期課程)	2	115	—	230	修士 (体育学) (コーチング学) <small>(スポーツ・オリエンティック学)</small>	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
芸術専攻 (博士前期課程)	2	60	—	120	修士 (芸術学) (デザイン学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
世界遺産専攻 (博士前期課程)	2	15	—	30	修士 (世界遺産学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
スポーツ国際開発学共同専攻 (修士課程)	2	5	—	10	修士 (スポーツ国際開発学)	平成28年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
国際連携食料健康科学専攻 (博士前期課程)	2	9	—	18	修士 (食料健康科学)	平成29年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
教育基礎学専攻 (博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (教育学)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1

学校教育学専攻 (博士後期課程)	3	6	—	18	博士 (教育学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
心理学専攻 (博士後期課程)	3	6	—	18	博士 (心理学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
障害科学専攻 (博士後期課程)	3	10	—	30	博士 (障害科学)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生涯発達科学専攻 (博士後期課程)	3	6	—	18	博士 (生涯発達科学) (カウンセリング科学) (リハビリテーション科学)	平成20年度	東京都文京区大塚3-29-1
ヒューマン・ケア科学専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	18	—	54	博士 (ヒューマン・ケア科学) (教育学) (心理学) (体育科学) (公衆衛生学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
感性認知脳科学専攻 (博士後期課程)	3	10	—	30	博士 (感性科学) (行動科学) (神経科学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
看護科学専攻 (博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (看護科学)	平成21年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
体育科学専攻 (博士後期課程)	3	15	—	45	博士 (体育科学) (健康スポーツ科学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
コーチング学専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	5	—	15	博士 (コーチング学) (学術)	平成18年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
スポーツ医学専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	10	—	30	博士 (スポーツ医学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
芸術専攻 (博士後期課程)	3	10	—	30	博士 (芸術学) (デザイン学)	平成19年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
世界文化遺産学専攻 (博士後期課程)	3	7	—	21	博士 (世界遺産学) (学術)	平成18年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
生命システム医学専攻 (医学を履修する博士課程)	4	28	—	112	博士 (医学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
疾患制御医学専攻 (医学を履修する博士課程)	4	34	—	136	博士 (医学) (学術)	平成20年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
大学体育スポーツ高度化共同専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	3	—	9	博士 (体育スポーツ学)	平成28年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
図書館情報メディア研究科 図書館情報メディア専攻 (博士前期課程)	2	37	—	74	修士 (図書館情報学)	平成15年度	茨城県つくば市春日1-2

図書館情報メディア専攻 (博士後期課程)	3	21	—	63	(情報学) 博士 (図書館情報学) (情報学) (学術)	平成15年度	茨城県つくば市春日1-2
<以下は学生募集を停止している専攻> 社会システム・マネジメント専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (社会経済) (社会工学) (マネジメント) (工学)	平成12年度	茨城県つくば市天王台1-1-1
校舎	専用		共用		共用する他の 学校等の専用		計
	478,742㎡ (478,742㎡)		0㎡ (0 ㎡)		0㎡ (0 ㎡)		478,742㎡ (478,742㎡)

教育課程等の概要（共同学科等）

（体育学研究科 大学体育スポーツ高度化共同専攻（3年制博士課程））

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 実践的教育能力育成科目	大学体育論	1前	筑波大学	1			○			1					兼1	※演習 メ ^o イ
	大学体育授業演習Ⅰ	1後	筑波大学		2			○		5	1				兼1	メ ^o イ
	大学体育授業演習Ⅱ	2・3後	筑波大学		2			○		5	1				兼1	メ ^o イ
	大学体育授業演習Ⅲ	2・3通	筑波大学		2			○		5	1				兼1	集中,メ ^o イ
	体育スポーツ実践的指導演習	1前	鹿屋体育大学		2			○		3					兼1	共同(一部), オムバス,メ ^o イ
	小計(5科目)	—			1	8	0	—	—	8	1	0	0	0	兼3	
実践的研究能力育成科目	大学体育研究演習	1通	筑波大学		2			○		1						メ ^o イ
	体育スポーツ実践的研究方法論	1前	鹿屋体育大学	1			○		3					兼1	オムバス,集中, メ ^o イ	
	体育スポーツ実践的研究演習Ⅰ	1後	鹿屋体育大学		2			○		3				兼1	共同,メ ^o イ	
	体育スポーツ実践的研究演習Ⅱ	2前	鹿屋体育大学		2			○		3				兼1	共同,メ ^o イ	
	体育スポーツ実践的研究演習Ⅲ	2・3通	鹿屋体育大学		2			○		3				兼1	共同,集中, メ ^o イ	
	小計(5科目)	—			1	8	0	—	—	4	0	0	0	0	兼1	
博士論文研究基礎	博士論文課題演習Ⅰ	1通	筑波大学・鹿屋体育大学	2				○		8	1				兼1	メ ^o イ
	博士論文課題演習Ⅱ	2通	筑波大学・鹿屋体育大学	2				○		8	1				兼1	メ ^o イ
	小計(2科目)	—			4	0	0	—	—	8	1	0	0	0	兼1	
専門基礎科目	つくばサマーインスティテュート	1・2前	筑波大学		2			○			1					集中,演習
	国際インターンシップ*	1・2・3通	筑波大学		1				○						兼1	集中
	コーチングの哲学と倫理	1前	筑波大学		1			○		1					兼8	オムバス,メ ^o イ
	最先端スポーツ科学理論	1通	鹿屋体育大学		1			○		3					兼1	共同(一部), オムバス,メ ^o イ
	小計(4科目)	—			0	5	0	—	—	4	1	0	0	0	兼10	
合計(16科目)		—			6	21	0	—	—	8	1	0	0	0	兼12	
学位又は称号	博士(体育スポーツ学)		学位又は学科の分野			体育関係										
卒業要件及び履修方法				開設大学	開設単位数(必修)			授業期間等								
(修了要件) 3年以上在学し、所定の履修方法により14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 (履修方法) 次の科目を含めて14単位以上を修得すること。 ・実践的教育能力育成科目：3単位(必修) ・実践的研究能力育成科目：3単位(必修) ・高度指導者教養育成科目：1単位(必修) ・博士論文研究基礎力育成科目：4単位(必修)				筑波大学	17(5)	1学年の学期区分		2期								
						1学期の授業期間		15週								
					鹿屋体育大学	14(5)	1時限の授業時間		筑波大学：75分 鹿屋体育大学：90分							
* 大学院共通科目として開設している科目。																

教育課程等の概要																		
（体育学研究科 大学体育スポーツ高度化共同専攻（3年制博士課程））																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門科目	実践的教育能力育成科目	体育スポーツ実践的指導演習	1前		2					○		3					兼1	共同(一部), オムバス, ｽﾃｲｱ
		小計(1科目)	—	0	2	0			—			3	0	0	0	0	兼1	—
	実践的研究能力育成科目	体育スポーツ実践的研究方法論	1前	1					○			3					兼1	オムバス, 集中, ｽﾃｲｱ
		体育スポーツ実践的研究演習Ⅰ	1後		2					○		3					兼1	共同, ｽﾃｲｱ
		体育スポーツ実践的研究演習Ⅱ	2前		2					○		3					兼1	共同, ｽﾃｲｱ
		体育スポーツ実践的研究演習Ⅲ	2・3通		2					○		3					兼1	共同, 集中, ｽﾃｲｱ
	小計(4科目)	—	1	6	0			—			3	0	0	0	0	兼1	—	
	博士論文研究基礎力育成科目	博士論文課題演習Ⅰ	1通	2						○		3						ｽﾃｲｱ
		博士論文課題演習Ⅱ	2通	2						○		3						ｽﾃｲｱ
		小計(2科目)	—	4	0	0			—			3	0	0	0	0		
専門基礎科目	高度指導者教養	最先端スポーツ科学理論	1通		1				○		3						兼1	共同(一部), オムバス, ｽﾃｲｱ
		小計(1科目)	—	0	1	0			—			3	0	0	0	0	兼1	—
合計(8科目)			—	5	9	0			—		3	0	0	0	0	兼1	—	
学位又は称号		博士(体育スポーツ学)		学位又は学科の分野				体育関係										
卒業要件及び履修方法							授業期間等											
(修了要件) 3年以上在学し、所定の履修方法により14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 (履修方法) 次の科目を含めて14単位以上を修得すること。 ・実践的教育能力育成科目：3単位(必修) ・実践的研究能力育成科目：3単位(必修) ・高度指導者教養育成科目：1単位(必修) ・博士論文研究基礎力育成科目：4単位(必修)							1学年の学期区分				2期							
							1学期の授業期間				15週							
							1時限の授業時間				90分							

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要（共同学科等）

【改組前】（体育学研究科 大学体育スポーツ高度化共同専攻（3年制博士課程））

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 実践的教育能力育成科目	大学体育論	1前	筑波大学	1			○			1					兼1	※演習 メ ^o イ
	大学体育授業演習Ⅰ	1後	筑波大学		2			○		5	1					メ ^o イ
	大学体育授業演習Ⅱ	2・3後	筑波大学		2			○		5	1					メ ^o イ
	大学体育授業演習Ⅲ	2・3通	筑波大学		2			○		5	1					集中,メ ^o イ
	体育スポーツ実践的指導演習	1前	鹿屋体育大学		2			○		3					兼1	共同(一部), オムバス,メ ^o イ
	小計(5科目)	—			1	8	0	—	—	8	1	0	0	0	兼2	
実践的研究能力育成科目	大学体育研究演習	1通	筑波大学		2			○		1						メ ^o イ
	体育スポーツ実践的研究方法論	1前	鹿屋体育大学	1			○		3					兼1	オムバス,集中, メ ^o イ	
	体育スポーツ実践的研究演習Ⅰ	1後	鹿屋体育大学		2			○		3				兼1	共同,メ ^o イ	
	体育スポーツ実践的研究演習Ⅱ	2前	鹿屋体育大学		2			○		3				兼1	共同,メ ^o イ	
	体育スポーツ実践的研究演習Ⅲ	2・3通	鹿屋体育大学		2			○		3				兼1	共同,集中, メ ^o イ	
	小計(5科目)	—			1	8	0	—	—	4	0	0	0	0	兼1	
博士論文研究基礎科目	博士論文課題演習Ⅰ	1通	筑波大学・鹿屋体育大学	2				○		9	1				兼1	メ ^o イ
	博士論文課題演習Ⅱ	2通	筑波大学・鹿屋体育大学	2				○		9	1				兼1	メ ^o イ
	小計(2科目)	—			4	0	0	—	—	9	1	0	0	0	兼1	
専門基礎科目 高度指導者教養育成	つくばサマーインスティテュート	1・2前	筑波大学		2			○			1					集中,演習
	国際インターンシップ	1・2・3通	筑波大学		1				○					兼1	集中	
	コーチングの哲学と倫理	1前	筑波大学		1			○						兼9	オムバス,メ ^o イ	
	最先端スポーツ科学理論	1通	鹿屋体育大学		1			○		3				兼1	共同(一部), オムバス,メ ^o イ	
	小計(4科目)	—			0	5	0	—	—	3	1	0	0	0	兼11	
合計(16科目)		—			6	21	0	—	—	9	1	0	0	0	兼12	
学位又は称号		博士(体育スポーツ学)		学位又は学科の分野			体育関係									
卒業要件及び履修方法				開設大学	開設単位数(必修)			授業期間等								
(修了要件) 3年以上在学し、所定の履修方法により14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 (履修方法) 次の科目を含めて14単位以上を修得すること。 ・実践的教育能力育成科目：3単位(必修) ・実践的研究能力育成科目：3単位(必修) ・高度指導者教養育成科目：1単位(必修) ・博士論文研究基礎力育成科目：4単位(必修)				筑波大学	17(5)	1学年の学期区分		2期								
						1学期の授業期間		15週								
					鹿屋体育大学	14(5)	1時限の授業時間		筑波大学：75分 鹿屋体育大学：90分							

教 育 課 程 等 の 概 要

【改組前】（体育学研究科 大学体育スポーツ高度化共同専攻（3年制博士課程））

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目 実践的教育能力育成科目	体育スポーツ実践的指導演習	1前		2				○		3					兼1	共同(一部), オムバス, ｽﾃｲｱ
	小計(1科目)	—	0	2	0	—			3	0	0	0	0	兼1	—	
	体育スポーツ実践的研究方法論	1前	1					○		3					兼1	オムバス, 集中, ｽﾃｲｱ
	体育スポーツ実践的研究演習Ⅰ	1後		2				○		3					兼1	共同, ｽﾃｲｱ
	体育スポーツ実践的研究演習Ⅱ	2前		2				○		3					兼1	共同, ｽﾃｲｱ
専門科目 実践的研究能力育成科目	体育スポーツ実践的研究演習Ⅲ	2・3通		2				○		3					兼1	共同, 集中, ｽﾃｲｱ
	小計(4科目)	—	1	6	0	—			3	0	0	0	0	兼1	—	
	博士論文課題演習Ⅰ	1通		2				○		3						ｽﾃｲｱ
	博士論文課題演習Ⅱ	2通		2				○		3						ｽﾃｲｱ
	小計(2科目)	—	4	0	0	—			3	0	0	0	0	—	—	
専門基礎科目 高度指導者教養	最先端スポーツ科学理論	1通		1				○		3					兼1	共同(一部), オムバス, ｽﾃｲｱ
	小計(1科目)	—	0	1	0	—			3	0	0	0	0	兼1	—	
合計(8科目)		—	5	9	0	—			3	0	0	0	0	兼1	—	
学位又は称号	博士(体育スポーツ学)		学位又は学科の分野			体育関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
(修了要件) 3年以上在学し、所定の履修方法により14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 (履修方法) 次の科目を含めて14単位以上を修得すること。 ・実践的教育能力育成科目：3単位(必修) ・実践的研究能力育成科目：3単位(必修) ・高度指導者教養育成科目：1単位(必修) ・博士論文研究基礎力育成科目：4単位(必修)						1学年の学期区分			2期							
						1学期の授業期間			15週							
						1時限の授業時間			90分							

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授業科目の概要（共同学科等）				
（体育学研究科 大学体育スポーツ高度化共同専攻（3年制博士課程））				
科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 実践的教育能力育成科目	筑波大学	大学体育論	体育以外を専攻する大学生対象に開講される、教養(共通)科目としての体育授業を、一般に「大学体育」と呼ぶ。体育を専攻する大学院生が修了後に大学で職を得る場合、その多くがこの大学体育を主に担当することになる。体育以外を専攻する大学生への体育授業や運動部活動のあり方を考えることは、将来の大学体育教員をめざす大学院生へ向けたキャリア教育ともいえる。本講では、今日の大学教養体育教員に求められる職務の理解を深めるとともに、大学体育や大学スポーツの教育・指導の質保証に繋がる知見を体系的に学ぶ。授業設計のレポートおよび授業中の討論への積極性から総合的に評価する。	メディア 講義 9時間 演習 6時間
	筑波大学	大学体育授業演習I	大学新入生対象の教養体育授業、または模擬授業研究会「つくば実習」を演習の場とする。主に体育科教育学で確立されてきた体育授業の観察評価方法を体系的に学ぶ。体育授業を観察評価するための分析的な知識・技能・態度を総合的に獲得することを到達目標とし、主観的な評価方法と組織的な評価方法を網羅的に経験する。授業場面の言動、省察記録、面談等から、体育授業を観察評価するための分析的な知識・技能・態度の獲得の程度を総合的に評価する。	メディア
	筑波大学	大学体育授業演習II	大学2年次生対象の大学教養体育授業を演習の場とする。授業担当の経験を学びの出発点とした現実的な演習とするため、授業実践と自己省察の往還を詳細に記録し、ティーチング・ポートフォリオを作り上げる。授業の目標—内容—評価を関連づけながら、効果的・効率的・魅力的な教授法と自立的省察の効果的な循環を実践することができることを到達目標とする。授業場面の言動、省察記録、面談等から、自立的な省察力の獲得の程度を総合的に評価する。	メディア
	筑波大学	大学体育授業演習III	曜日時限の固定された定時開講ではない、季節性の集中授業として開講される大学教養体育授業を演習の場とする。授業担当の経験を学びの出発点とした現実的な演習とするため、授業実践と自己省察の往還を詳細に記録し、ティーチング・ポートフォリオを作り上げる。授業の目標—内容—評価を関連づけながら、効果的・効率的・魅力的な教授法と自立的省察の効果的な循環を実践することができることを到達目標とする。授業場面の言動、省察記録、面談等から、自立的な省察力の獲得の程度を総合的に評価する。	集中 メディア
	鹿屋体育大学	体育スポーツ実践的指導演習	大学体育スポーツを先導する実技教育能力を身につけるために大学体育スポーツの指導者としての専門的知識・態度について概説し、大学体育スポーツ指導の計画と実践を通して実技教育能力を養成する。 (オムニバス方式/全15回) (7 山本正嘉) 1. 大学体育スポーツ指導における理論知と実践知 (7 山本正嘉) 2. 大学体育スポーツ指導者のリテラシーとコンピテンシー (8 高橋仁大) 3. 大学体育スポーツ指導におけるコーチング1：技術の診断と処方 (8 高橋仁大) 4. 大学体育スポーツ指導におけるコーチング2：コーチングの実践 (8 高橋仁大) 5. 大学体育スポーツ指導の実際 個人種目1 (8 高橋仁大) 6. 大学体育スポーツ指導の実際 個人種目2 (17 金高宏文) 7. 大学体育スポーツ指導の実際 個人種目3	オムニバス方式 共同（一部） メディア

			(17 金高宏文) 8. 大学体育スポーツ指導の実際：個人種目4 (6 前田明) 9. 大学体育スポーツ指導の実際：チーム種目1 (6 前田明) 10. 大学体育スポーツ指導の実際：チーム種目2 (8 高橋仁大・山本 正嘉・金高宏文・前田明) 11. 大学体育スポーツ指導の計画と実践1：指導実践1 (8 高橋仁大・山本 正嘉・金高宏文・前田明) 12. 大学体育スポーツ指導の計画と実践2：指導実践1の振り返り (8 高橋仁大・山本 正嘉・金高宏文・前田明) 13. 大学体育スポーツ指導の計画と実践3：指導実践2 (8 高橋仁大・山本 正嘉・金高宏文・前田明) 14. 大学体育スポーツ指導の計画と実践4：指導実践2の振り返り (8 高橋仁大) 15. 実践的体育スポーツ指導者を目指して	
実践的研究能力育成科目	筑波大学	大学体育研究演習	体育・スポーツに関する研究方法・論文執筆方法をテキスト「身体活動科学における研究方法」に沿って体系的に学ぶ。専門とする1つの狭い研究領域だけでなく、体育・スポーツ・健康科学に関する周辺領域の価値観や研究方法を理解することで、大学体育・大学スポーツの発展に寄与する実践研究への着眼力を獲得することを到達目標とする。大学体育・大学スポーツの教育・指導の現場に活かせる実践的研究テーマを複数考案し、研究計画書としてまとめたレポートにより評価する。	メディア
	鹿屋体育大学	体育スポーツ実践的研究方法論	スポーツの実践現場へ貢献するための実践的研究の方法論について概説する。特に大学体育および大学スポーツを対象に、その実践の現場で起こる様々な事象について、直接的に寄与する知見（実践の知）を得るための研究方法論について学ぶ。 (オムニバス方式／全8回) (7 山本正嘉) 1. 実践的研究の意義 (7 山本正嘉) 2. 大学体育・スポーツにおける実践を意識した研究のあり方 (8 高橋仁大) 3. 体育・スポーツ実践における経験知（実践知）を記述・分析する方法論 (8 高橋仁大) 4. 実践知を客観的に記述・検証する方法論1：ゲーム・戦術を記述・検証する (17 金高宏文) 5. 実践知を客観的に記述・検証する方法論2：動きを記述・検証する (17 金高宏文) 6. 実践知を客観的に記述・検証する方法論3：コーチングおよびチームマネジメントを記述・検証する (6 前田明) 7. 実践知を客観的に記述・検証する方法論4：コンディショニングを記述・検証する (6 前田明) 8. 実践的研究を進めるための研究計画と研究倫理	オムニバス方式 集中 メディア
	鹿屋体育大学	体育スポーツ実践的研究演習I	体育およびスポーツにおける実践的な研究とは何かを理解し、自身でも論文の作成ができるようになるための方法論を学ぶ。当該研究の発表の場である『スポーツパフォーマンス研究』に掲載された過去の論文を購読し、それを題材として実践的研究とは何か、またどのように論文をまとめるべきかについて理解を深めるとともに、自身のデータをもとに実践的研究の論文としてまとめる作業を行う。	共同 メディア
鹿屋体育大学	体育スポーツ実践的研究演習II	体育およびスポーツにおける実践的な研究能力を身につけるために、受講者が関わっている体育やスポーツの現場において、自らがデータを収集し、それを実践研究の論文としてまとめ、『スポーツパフォーマンス研究』をはじめとする、実践的な研究論文を掲載する雑誌に投稿・掲載するまでの作業を行う。その過程で、当該研究の発表の場である「スポーツパフォーマンス・カンファレンス（SPERC）」での自らの発表や他の研究者の発表視聴を通じて実践研究の見識を深める。評価は、演習への積極的な参加態度や「スポーツパフォーマンス・カンファレンス（SPERC）」での発表や『スポーツパフォーマンス研究』をはじめとする実践的な研究論文を掲載する雑誌への執筆・投稿の成果から総合的に判断する。	共同 メディア	

	鹿屋体育大学	体育スポーツ実践的研究演習III	光学式モーションキャプチャー、フォースプレートやハイスピードカメラ、オブジェクトトラッキングシステム、球質診断装置等の先進的な研究機器をスポーツパフォーマンス研究センター等に設置して、体育・スポーツの実践的研究能力を向上させるための演習を行う。必要に応じてその種目の競技場や体育館に設置しデータをす得する。その後、得られたデータの分析法、フィードバック法を検討し、状況に合わせたデータ処理、データ提供をどのようにすべきか議論する。さらに上記の客観的データに加えて、アスリートおよびその他の実験協力者の内省報告を重視し、主観的データも併せた研究を行う。	共同 集中 メディア
博士論文研究基礎力育成科目	筑波大学 鹿屋体育大学	博士論文課題演習I	研究テーマを定め、それに関する課題を設定し、それに答えるためのデータを収集し、そこから根拠を示して答える。学術論文の基本構造を理解し、緒言、方法、結果、考察において、何をどのように書くかを学ぶ。このような研究のプロセスを体系的に経験し、査読つき学術誌へ論文投稿を行うための準備を進めていく。この博士論文課題演習Iでは主に博士論文の研究テーマの構想、デザイン、計画立案を軸とし、2年次における博士論文課題演習IIでは主に投稿論文が受理されるまでの手続きを学習する。	メディア
	筑波大学 鹿屋体育大学	博士論文課題演習II	春学期には、投稿した論文に対する査読者および編集委員会からの指摘を正しく理解し、それに対する意見を添えた修正原稿をとりまとめる。受理された後も、グラ校正において一字一句に著者としての責任を持ち、誤植等のない論文を公表する。査読者および編集委員会との文章でのやりとりを体験するなかで、自己の研究課題の意義や方向性を深く再検討していく。秋学期には、QE（博士論文執筆開始資格認定検査）へ向けた準備を進める。	メディア
専門基礎科目	筑波大学	つくばサマーインスティテュート	筑波大学体育系と学術協定を結んでいる海外の大学と共同で企画する、英語を公用語とするプログラムである。体育・スポーツ領域にかかわる大学生・大学院生、若手研究者を対象とし、日本の体育・スポーツ文化を理解し、体育・スポーツ教育、スポーツ科学に関わる諸外国の現状と課題について情報を共有し、協力して国際的課題に取り組むグローバル人材として資質の向上を図ることをねらいとする。	集中 演習
	筑波大学	国際インターンシップ	国際的な職業体験（海外の大学におけるPFF体験を含む）や海外の大学・研究機関が主催する各種トレーニングコースへの参加の成果を単位認定する科目である。 学内教員、教育組織など、コーディネーターによりプランニングされた海外の大学や研究所訪問、および大学院生との交流も対象となる。	集中
	筑波大学	コーチングの哲学と倫理	コーチの仕事と求められる資質および能力を理解するとともに、コーチング実践の根幹となる哲学と倫理について学習し、これからの時代にふさわしいコーチングを創造していく能力を養成する。また、授業を通してコーチングに関する哲学および倫理について深く論考し、それらを報告し議論させることをとおして、コーチとしての自らの倫理感や哲学感、視座を明確にする。 (オムニバス方式／全10回) (14 河合季信) ①コーチが有すべき指導哲学および指導 (15 深澤浩洋) ②コーチングとフェアプレー (10 齋藤健司) ③コーチングと人権 (13 山口香) ④コーチングと暴力・体罰 (5 本間三和子) ⑤コーチングとハラスメント (18 浅川伸) ⑥コーチングとドーピング・薬物乱用 (16 向井直樹) ⑦コーチングと事故防止・安全対策 (19 勝田隆) ⑧新しい時代にふさわしいコーチング：「インテグリティ」と「コンピテンシー」の視点から (コーチング学専攻教員) ⑨新しい時代にふさわしいコーチングを議論する1 (コーチング学専攻教員) ⑩新しい時代にふさわしいコーチングを議論する2	オムニバス方式 メディア

鹿屋体育 大学	最先端スポーツ科学 理論	<p>本授業では、大学体育や大学スポーツを先導する高度指導者に必要な教養として、体育スポーツ分野における最先端の生命科学や人文・社会科学領域の研究成果を概説し、その見識を深めることを目指す。授業は、鹿屋体育大学教員による特別講義や論文指導研究会および学位論文発表会で実施される。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(8 高橋仁大、7 山本正嘉、6 前田明、17 金高宏文) ① 生命科学1</p> <p>(8 高橋仁大、7 山本正嘉、6 前田明、17 金高宏文) ② 生命科学2</p> <p>(8 高橋仁大、7 山本正嘉、6 前田明、17 金高宏文) ③ 特別講義</p> <p>(8 高橋仁大、7 山本正嘉、6 前田明、17 金高宏文) ④ 文化・社会科学1</p> <p>(8 高橋仁大、7 山本正嘉、6 前田明、17 金高宏文) ⑤ 文化・社会科学2</p> <p>(8 高橋仁大、7 山本正嘉、6 前田明、17 金高宏文) ⑥ 特別講義</p> <p>(8 高橋仁大、7 山本正嘉、6 前田明、17 金高宏文) ⑦ 論文指導研究会への参画</p> <p>(8 高橋仁大、7 山本正嘉、6 前田明、17 金高宏文) ⑧ 学位論文発表会への参画</p>	オムニバス方式 共同 (一部) メディア
筑波大学	(研究指導)	<p>(1 木内敦詞) 大学教育学的観点から大学体育スポーツを対象とした研究課題に関する研究指導を行う。</p> <p>(2 坂本昭裕) 臨床心理学的あるいは野外運動的観点から大学体育スポーツを対象とした研究課題に関する研究指導を行う。</p> <p>(3 白木仁) スポーツ医学的観点から大学体育スポーツを対象とした研究課題に関する研究指導を行う。</p> <p>(4 高木英樹) バイオメカニクス的あるいはコーチング学の観点から大学体育スポーツを対象とした研究課題に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 本間三和子) コーチング学的観点から大学体育スポーツを対象とした研究課題に関する研究指導を行う。</p>	
鹿屋体育 大学	(研究指導)	<p>(6 前田明) バイオメカニクス、スポーツパフォーマンス学の観点から大学体育スポーツを対象とした研究課題に関する研究指導を行う。</p> <p>(7 山本正嘉) トレーニング学の立場から、スポーツの実践現場に則した現実的なトレーニング研究のあり方に関する研究指導を行う。</p> <p>(8 高橋仁大) コーチング学およびゲームパフォーマンス分析の観点から大学体育スポーツを対象とした研究課題に関する研究指導を行う。</p>	

(注)

- 1 共同学科等を設置する場合は、別記様式第2号(その3の1)に代えて、この書類を作成すること。
- 2 共同学科等を設置する場合は、この書類に加え、別記様式第2号(その3の1)の例により、構成大学別のものを作成すること。
- 3 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 4 私立の大学若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要			
(体育学研究科 大学体育スポーツ高度化共同専攻(3年制博士課程))			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	実践的教育能力育成科目 体育スポーツ実践的指導演習	<p>大学体育スポーツを先導する実技教育能力を身につけるために大学体育スポーツの指導者としての専門的知識・態度について概説し、大学体育スポーツ指導の計画と実践を通して実技教育能力を養成する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(7 山本正嘉) 1. 大学体育スポーツ指導における理論知と実践知 (7 山本正嘉) 2. 大学体育スポーツ指導者のリテラシーとコンピテンシー (8 高橋仁大) 3. 大学体育スポーツ指導におけるコーチング1: 技術の診断と処方 (8 高橋仁大) 4. 大学体育スポーツ指導におけるコーチング2: コーチングの実際 (8 高橋仁大) 5. 大学体育スポーツ指導の実際 個人種目1 (8 高橋仁大) 6. 大学体育スポーツ指導の実際 個人種目2 (17 金高宏文) 7. 大学体育スポーツ指導の実際 個人種目3 (17 金高宏文) 8. 大学体育スポーツ指導の実際: 個人種目4 (6 前田明) 9. 大学体育スポーツ指導の実際: チーム種目1 (6 前田明) 10. 大学体育スポーツ指導の実際: チーム種目2 (8 高橋仁大・山本 正嘉・金高宏文・前田明) 11. 大学体育スポーツ指導の計画と実践1: 指導実践1 (8 高橋仁大・山本 正嘉・金高宏文・前田明) 12. 大学体育スポーツ指導の計画と実践2: 指導実践1の振り返り (8 高橋仁大・山本 正嘉・金高宏文・前田明) 13. 大学体育スポーツ指導の計画と実践3: 指導実践2 (8 高橋仁大・山本 正嘉・金高宏文・前田明) 14. 大学体育スポーツ指導の計画と実践4: 指導実践2の振り返り (8 高橋仁大) 15. 実践的体育スポーツ指導者を目指して</p>	オムニバス方式 共同(一部) メディア
実践的研究能力育成科目	体育スポーツ実践的研究方法論	<p>スポーツの実践現場へ貢献するための実践的研究の方法論について概説する。特に大学体育および大学スポーツを対象に、その実践の現場で起こる様々な事象について、直接的に寄与する知見(実践の知)を得るための研究方法論について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(7 山本正嘉) 1. 実践的研究の意義 (7 山本正嘉) 2. 大学体育・スポーツにおける実践を意識した研究のあり方 (8 高橋仁大) 3. 体育・スポーツ実践における経験知(実践知)を記述・分析する方法論 (8 高橋仁大) 4. 実践知を客観的に記述・検証する方法論1: ゲーム・戦術を記述・検証する (17 金高宏文) 5. 実践知を客観的に記述・検証する方法論2: 動きを記述・検証する (17 金高宏文) 6. 実践知を客観的に記述・検証する方法論3: コーチングおよびチームマネジメントを記述・検証する (6 前田明) 7. 実践知を客観的に記述・検証する方法論4: コンディショニングを記述・検証する (6 前田明) 8. 実践的研究を進めるための研究計画と研究倫理</p>	オムニバス方式 集中 メディア
	体育スポーツ実践的研究演習I	<p>体育およびスポーツにおける実践的な研究とは何かを理解し、自身でも論文の作成ができるようになるための方法論を学ぶ。当該研究の発表の場である『スポーツパフォーマンス研究』に掲載された過去の論文を購読し、それを題材として実践的研究とは何か、またどのように論文をまとめるべきかについて理解を深めるとともに、自身のデータをもとに実践的研究の論文としてまとめる作業を行う。</p>	共同 メディア

	体育スポーツ実践的研究演習II	体育およびスポーツにおける実践的な研究能力を身につけるために、受講者が関わっている体育やスポーツの現場において、自らがデータを収集し、それを実践研究の論文としてまとめ、『スポーツパフォーマンス研究』をはじめとする、実践的な研究論文を掲載する雑誌に投稿・掲載するまでの作業を行う。その過程で、当該研究の発表の場である「スポーツパフォーマンス・カンファレンス (SPERC)」での自らの発表や他の研究者の発表視聴を通じて実践研究の見識を深める。評価は、演習への積極的な参加態度や「スポーツパフォーマンス・カンファレンス (SPERC)」での発表や『スポーツパフォーマンス研究』をはじめとする実践的な研究論文を掲載する雑誌への執筆・投稿の成果から総合的に判断する。	共同 メディア
	体育スポーツ実践的研究演習III	光学式モーションキャプチャー、フォースプレートやハイスピードカメラ、オブジェクトトラッキングシステム、球質診断装置等の先端的研究機器をスポーツパフォーマンス研究センター等に設置して、体育・スポーツの実践的研究能力を向上させるための演習を行う。必要に応じてその種目の競技場や体育館に設置しデータをす得する。その後、得られたデータの分析法、フィードバック法を検討し、状況に合わせたデータ処理、データ提供をどのようにすべきか議論する。さらに上記の客観的データに加えて、アスリートおよびその他の実験協力者の自省報告を重視し、主観的データも併せた研究を行う。	共同 集中 メディア
	博士論文課題演習I	研究テーマを定め、それに関わる課題を設定し、それに答えるためのデータを収集し、そこから根拠を示して答える。学術論文の基本構造を理解し、緒言、方法、結果、考察において、何をどのように書くかを学ぶ。このような研究のプロセスを体系的に経験し、査読つき学術誌へ論文投稿を行うための準備を進めていく。この博士論文課題演習Iでは主に博士論文の研究テーマの構想、デザイン、計画立案を軸とし、2年次における博士論文課題演習IIでは主に投稿論文が受理されるまでの手続きを学習する。	メディア
	博士論文課題演習II	春学期には、投稿した論文に対する査読者および編集委員会からの指摘を正しく理解し、それに対する意見を添えた修正原稿をとりまとめる。受理された後も、グラ校正において一字一句に著者としての責任を持ち、誤植等のない論文を公表する。査読者および編集委員会との文章でのやりとりを体験するなかで、自己の研究課題の意義や方向性を深く再検討していく。秋学期には、QE (博士論文執筆開始資格認定検査) へ向けた準備を進める。	メディア
専 門 基 礎 科 目	高度指導者教養育成科目	最先端スポーツ科学理論 本授業では、大学体育や大学スポーツを先導する高度指導者に必要な教養として、体育スポーツ分野における最先端の生命科学や人文・社会科学領域の研究成果を概説し、その見識を深めることを目指す。授業は、鹿屋体育大学教員による特別講義や論文指導研究会および学位論文発表会で実施される。 (オムニバス方式/全8回) (8 高橋仁大、7 山本正嘉、6 前田明、17 金高宏文) ①生命科学1 (8 高橋仁大、7 山本正嘉、6 前田明、17 金高宏文) ②生命科学2 (8 高橋仁大、7 山本正嘉、6 前田明、17 金高宏文) ③特別講義 (8 高橋仁大、7 山本正嘉、6 前田明、17 金高宏文) ④文化・社会科学1 (8 高橋仁大、7 山本正嘉、6 前田明、17 金高宏文) ⑤文化・社会科学2 (8 高橋仁大、7 山本正嘉、6 前田明、17 金高宏文) ⑥特別講義 (8 高橋仁大、7 山本正嘉、6 前田明、17 金高宏文) ⑦論文指導研究会への参画 (8 高橋仁大、7 山本正嘉、6 前田明、17 金高宏文) ⑧学位論文発表会への参画	オムニバス方式 共同 (一部) メディア
	(研究指導)	(6 前田明) バイオメカニクス、スポーツパフォーマンス学の観点から大学体育スポーツを対象とした研究課題に関する研究指導を行う。 (7 山本正嘉) トレーニング学の立場から、スポーツの実践現場に則した現実的なトレーニング研究のあり方に関する研究指導を行う。 (8 高橋仁大) コーチング学およびゲームパフォーマンス分析の観点から大学体育スポーツを対象とした研究課題に関する研究指導を行う。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

国立大学法人鹿屋体育大学 組織の移行表

2019年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	2020年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
鹿屋体育大学				鹿屋体育大学				
体育学部		3年次編入		体育学部				
スポーツ総合課程	120	20	480	スポーツ総合課程	120	3年次編入 20	480	
武道課程	50		200	武道課程	50		200	
			編入40				編入40	
計	170	20	720	計	170	20	720	
大学院体育学研究科				大学院体育学研究科				
体育学専攻 (M)	15	-	30	体育学専攻 (M)	15	-	30	
体育学専攻 (D)	6	-	18	体育学専攻 (D)	6	-	18	令和2年4月募集停止
スポーツ国際開発学共同専攻 (M) ※1	3	-	6					
	(8)	-	(16)	スポーツ国際開発学共同専攻 (M) ※1	3	-	6	専攻の設置
					(8)	-	(16)	令和2年4月募集停止
大学体育スポーツ高度化共同専攻 (D) ※1	2	-	6					
	(5)	-	(15)	大学体育スポーツ高度化共同専攻 (D) ※1	2	-	6	専攻の設置
					(5)	-	(15)	
計	26	-	60	計	26	-	60	

※1 大学院設置基準第31条第1項に基づく共同教育課程の専攻であって、その定員は本学に係るものである。なお、()内は当該共同教育課程全体の定員である。